



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.7

No.339

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



落語のなかの鳥たち

長野誠裕(さいたま市)

私が好きのものに、鳥見のほか、落語など古典芸能の鑑賞があります。年に数回ですが劇場や寄席に足を運びます。

ここでは古典落語の演目(ネタ)のうち、鳥に関連する代表的なものをご紹介します。創作された当時(主として江戸時代後半から明治時代)、鳥と人とがどのような関わり方をしていたのかについて一端を垣間見ることができるかもしれません。最初に申し上げておきますが、顔ぶれはいわゆる珍鳥ではなく、一般的な身近な鳥達です。

●スズメ:『抜け雀』

左甚五郎が主人公の「竹の水仙」や「ねずみ」などと同様に噺が展開するのですが、こちらは絵の名人が登場します。

一人の旅人がある宿に泊まりこんで大酒を飲みますが、一文無しで宿賃が払えません。宿賃の代わりに衝立に雀を5羽描き、去っていきます。不思議なことにこの絵の中の雀たちが朝になると絵から飛び出して、しばらくすると衝立の中におさまるので、間もなくこの宿屋は有名になって大繁盛します。

ある日、上品な老人がこの宿屋に立ち寄り、衝立をじっと見つめて「このままでは雀は死んでしまう」といって籠を描き加えました。すると抜け出た雀たちはすっと籠の中に入って羽を休めました。

数年の後、雀を描いた絵描きが立派ななりをして再び宿屋を訪ねてきて、籠が描き加えられた衝立を見て「不孝の段をお許してください」と泣き伏してしまいます。聞けば籠を描いたのはこの絵描きの父親だということで、宿屋の主人が「あなたほどの名人が親不孝者であるはずがない」の言葉に「いや亭主、親を駕籠かきにした」(籠と駕籠の洒落です)。

●サギ:『鷺とり』

同じ内容で鷺を雁に置き換えた『雁とり』もあります。

ご隠居に金儲けの方法を尋ねにきた八五郎は、夜に不忍池の鷺を捕まえて売ればいいといわれて、早速鷺を捕獲し、その数十羽を腰へひもで結びつけます。とたんに1羽の鷺が目覚まし、いっせいに飛び立ちます。八五

郎も天高く舞い上がりますが、帯が緩んで墜落してしまいます。運よく五重塔の上につかまりました。この姿を見つけたお寺の和尚さんが4人のお坊さんに布団の四隅を持たせて、八五郎を飛び降ろさせました。降りた途端に反動で布団がすぼまって、お坊さん達は鉢合わせしてしまいます。目からパッと火が出て布団に燃え移り、火事になってしまいました。

●ツル:『つる』

本当にばかばかしい前座噺*です。ご隠居のところへ八五郎がやってきて、松に鶴を描いた絵の説明を聞きます。鶴は名鳥で、昔は首長鳥と言っていたなどと得意顔で語っているご隠居に、八五郎はツルの名のいわれを尋ねます。「首長鳥のオスが1羽ツーと飛んできて松の枝に止まった。あとからメスがルーと飛んできたのでツルというようになった」とごまかします。八五郎はさっそくほかへ行って説明するのですが、「はじめにオスが1羽ツルーといって飛んできて…」と言ってしまったので、メスの説明に困ってしまい、「メスは黙って飛んできた」がオチになります。

ご存知のようにツルは木の枝には止まりません。このため枝に止まったツルの絵はコウノトリと取り違えられて描かれているといわれています。

●ガン:『雁風呂』

雁風呂の由来が物悲しくも心が温まる個人的にも大好きな噺です。水戸光圀が遠州掛川の宿へやって来た時のこと。立ち寄った茶店にあった屏風を見て、土佐光信の作とまでわ

かったが、松に雁という絵の意味がわかりませんでした。そこへ大坂風の町人2人がやって来て、この絵は雁風呂だと話しているの、光圀は彼らから絵の説明を聞きます。

秋になると、常盤（ときわ）という国から雁が渡ってきます。国を出るとき柴をくわえて飛び立ち、くたびれるとこれを海に落として、その上にとまって休みながら、函館までやって来ると、浜辺にある一木の松の根元に柴を捨て、日本国中を飛びあるくのです。この地の住人らがこの柴をしまっておいて、春になってから再び松の根元に出してやると、雁はこれをくわえて常盤の国に帰っていくのですが、あとにいつも柴がたくさん残ってしまいます。これだけの雁が日本で死んだのだと、追善供養のために人々はこの柴で風呂を焚いて、旅人の疲れを癒してあげたというのです。

これが雁風呂の由来だと聞いて光圀はすっかり感心し、町人の名をただと、お上よりお取りつぶしにあった大坂町人淀屋辰五郎の倅の二代目淀屋辰五郎で、柳沢美濃守に用立ててあった三千両のお下げ渡しを願いに江戸へ行く途中だと事情を明かすと、光圀は三千両下げ渡しの目録に印形を押して渡してやり、彼らは出発します。この2人は「しかし旦那様、雁風呂の話ひとつで三千両とは高い雁（かりがね：借金）ですな」「そのはずじゃ、貸金（かしがね）を取りに行くのじゃ」。

●カラス：『鳴鳥』

かなり頻りに高座にかかる有名なネタですが、鳥は登場しません。よく落語では「烏カーで夜が明けて…」というせりふが登場します。廓嘶などで男女の仲を詳述せずにサラッと流すときに使われることも多いです。

いい年になっても聖物過ぎて父親を心配させている日向屋の倅の時次郎。町内の悪を自認する源兵衛と太助の2人に観音様の裏手にあるお稲荷さんにお籠りに行こうと誘われます。察しのいい父親は、「あのお稲荷さんは身装（なり）が悪いとご利益ない」と着物を着替えさせ、金を持たせて出してやります。時次郎は連れて行かれた廓を最初はお稲荷さん



マガン（編集部）

と思っていました、すぐに内実がわかり、あわてて逃げ出そうとします。源兵衛と太助は「帰れるもんなら帰りなさい。でも、吉原の大門の番所へ入った時は3人で、帰るときは1人だと怪しいやつだとめられますよ」と脅されてしまいます。時次郎は仕方なく、絶世の美女で18歳の花魁浦里と廓での夜を過ごします。あくる朝、源兵衛と太助は相方にふられてふてくされているのですが、時次郎はなかなか起きてこない。様子を見るために部屋を覗くと時次郎は花魁と布団のなかで「結構なお籠りで」などと言っているの、あきれた2人が「先に帰りますよ」と声をかけると「先に帰れるものなら帰ってごらんください。大門でとめられる」。

古典落語のネタの数は、江戸と上方では違いますが、300～400といわれています。庶民の演芸のわりには鳥に関するネタの数は少なく、その中でもハトは見当たらず、逆に雁は現在よりはずっと身近な鳥であったこともわかり、意外な感じがしました。生の人間やペットでもある犬や猫を対象にしたものが大半を占めているようです。

落語以外にも、能・狂言、文楽などの演目にも鳥に題したものがあつたことがあります。これらは機会があればあらためてご紹介することにします。お後がよろしいようで！

（*注）前座が初めに習い覚える話を「前座嘶」と呼ぶ。多くは口慣らしや口捌きを兼ねた単純で短い、しかし基礎的な技術を養うのに適したネタ。

（参考文献）

東大落語会『増補落語事典』青蛙房（1996年9月）
矢野誠一『落語讀本』文芸春秋社（1989年12月）
矢野誠一『新版落語手帳』講談社（2009年11月）
吉田章一『江戸落語便利帳』青蛙房（2008年1月）

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ハイロヒレアシシギ

分類 チドリ目ヒレアシシギ科ヒレアシシギ属

英名 Grey Phalarope(英)
または Red Phalarope(米)

学名 *Phalaropus fulicarius*



2012年4月27日、比企郡嵐山町、都幾川と槻川合流点で大川清久会員が撮影。「カメラマンを気にせずにおっとりしていて、川の流れに身を任せ、そのまま川下に流されて行き、見失いました」とのこと。

ユーラシア、北米などの北極地方で繁殖、日本には旅鳥として飛来。大群を作って外洋にいたることが多いため、陸地で見ることはいない種です。埼玉県内では

- 1, 1990年12月1日越谷市内で1羽が落鳥保護されその後死亡、剥製保存された(本誌1996年7月第147号)。
- 2, 2002年4月28日戸田市彩湖で2羽写真撮影された(2002年7月第219号)。
- 3, 2005年4月21日さいたま市内で写真撮影されたと5月3日付け読売新聞埼玉県南版で報道(2005年6月第254号)。
- 4, 2009年4月26日さいたま市内で2羽写真撮影された(2009年8月第304号)。

という4件の確認記録のほか、1976年4月25日と5月5日さいたま市内(埼玉県教育委員会『埼玉県動物誌』)、1998年4月15日行田市市内(1998年6月第170号)の観察報告が残されています。

今回は外洋性の本種が海から70km以上離

れた内陸で記録された希少例です。

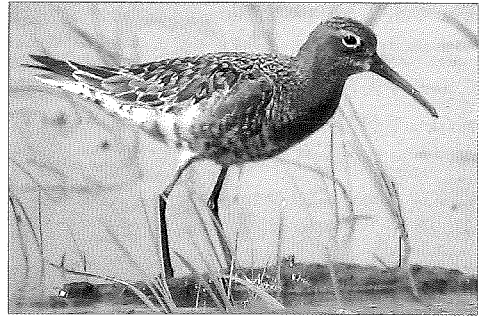
日米・日露渡り鳥条約、日豪・日中渡り鳥協定指定種。

●サルハマシギ

分類 チドリ目シギ科オバシギ属

英名 Curlew Sandpiper

学名 *Calidris ferruginea*



2012年5月6日から14日ころまでさいたま市西区(通称大久保農耕地A s 区)と志木市宗岡を行き来する成鳥夏羽2羽が、多くの人に写真撮影されました。この写真は5月7日海老原美夫会員が撮影したものです。

シベリア北部などで繁殖し、主な越冬地であるオーストラリアなどでは数千羽の群れも見られますが、日本には旅の途中で少数飛来するだけです。

埼玉県内では1979年8月27~28日さいたま市西区(通称大久保農耕地A s 区)で冬羽1羽が観察されたと埼玉大学野鳥研究会『鳥類観察報告5(1979年12月24日発行)』にあるのが最も古い記録です。写真撮影されたという話もあるようですが、詳細は不明。その後1989年6月5日と1992年5月13日戸田市道満(本誌1989年8月第63号と1992年9月第100号)、1993年5月23日和光市下新倉(1993年10月第114号)、2001年11月3日川本町(現・深谷市)明戸堰上流(2001年2月第202号)、2001年11月11日川口市差間(前同号)で観察したとの情報が寄せられています。そのほか、当会に報告されていない事例もあるようですが、それらを含めても多くはありません。本種も日米・日露渡り鳥条約、日豪・日中渡り鳥協定指定種です。



野鳥情報

熊谷市善ヶ島 ◇2月13日午前10時30分頃、利根川河川敷、アシ原上空をチュウヒ1羽、北西方向へ飛んで行った。同日11時30分頃、ヤナギの枝にミサゴがとまっていた(寺山聖二)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇3月1日、今シーズンは珍鳥のシメ1羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区膝子～緑区上野田 ◇3月1日、キジ♂1羽、タゲリ3羽、タシギ2羽、ミヤマガラス150羽+。オオイヌノフグリ、ホトケノザなど春の花が目立つようになった(山部直喜、小林洋一、小林みどり)。3月25日、コチドリ1羽、今季初認。カシラダカ夏羽の♂2羽、♀型1羽(小林洋一・小林みどり)。

さいたま市北区芝川(石橋～鷺山橋) ◇3月1日、カイツブリ夏羽2羽、「ケレケレケレ…」と鳴きながら、並んで泳ぐ。コガモ♂5羽、♀1羽、バン成鳥1羽、若鳥1羽、オオバン1羽、キセキレイ1羽。オオジュリン2羽、1羽は喉が黒くなり始めている。3月26日、カイツブリ夏羽1羽、カワウ2羽、コガモ♂1羽、♀1羽。オオタカ成鳥1羽、ハシブトガラス2羽に絡まれ「キ、キ、キ、キ」と鳴く。♂♀で鳴き交わす時の声よりもテンポが早い。4月2日、カイツブリ夏羽2羽、コガモ♂3羽、♀2羽、バン成鳥2羽、オオバン1羽、オオジュリン♂1羽、♀型1羽。4月11日、カイツブリ夏羽2羽、コガモ♂2羽、♀2羽、バン成鳥3羽。4月20日、アオサギ1羽、コガモ♀型1羽(小林みどり)。

吉見町明秋 ◇3月3日、ノスリ2羽、ディスプレイフライト。チュウヒ1羽、ジョウビタキ♀1羽、カシラダカ1羽、オオジュリン1羽+、ベニマシコ♂1羽、♀2羽(小林洋一、小林みどり)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇3月16日、チョウゲンボウ1羽、上空通過。シメ3羽+。3月22日、ジョウビタキ、「ヒッヒッ」と鳴く。この声は冬の間聞かれなかった。3月23日、ウグイス、シジウカラ、

メジロ、ホオジロ、カワラヒワの5種がさえずる。一気に春が来たようだ。4月2日、シロハラ、今季初のさえずり。カワラヒワ1羽、糸くずのようなものをくわえている。アオジ1羽、今季初のさえずり。4月10日、アカハラ1羽、シロハラ10羽+。コサメビタキ1羽、さかんにフライキャッチ(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇3月15日、ダイサギ1羽、モズ♂1羽、高鳴きを小さくしたような声で鳴く。3月25日、マガモ♂1羽♀1羽、オオジュリン2羽。3月29日、カワウ1羽、上空通過。ダイサギ1羽、コサギ1羽、アオサギ1羽、キジ♂1羽、コチドリ7羽(小林みどり)。

深谷市川本 白鳥飛来地 ◇3月16日、カイツブリ5～10羽、すべて夏羽。コハクチョウ20羽+、ホオジロガモ♂繁殖羽3羽、♀型10羽+、ミコアイサ♀型3羽、チョウゲンボウ1羽。コチドリ2羽、渡ってきたのか越冬したのか? イカルチドリ2羽、イワツバメ3羽、ビンズイ2羽、ジョウビタキ♂1羽、♀1羽(小林洋一、小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇3月29日、ヒドリガモ♂15羽、♀12羽、オナガガモ♀1羽、ツミの声、バン成鳥4羽、若鳥1羽、オオバン7羽。ツバメ2羽、今季初認。シロハラ1羽、嘴の色が変わり始めたシメ1羽(小林みどり)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇4月3日、ハヤブサが風に向かって飛ぶも流された。2羽のメジロがカエデの枝先で新芽の周りを次々とついばんでいた。虫がいるのかなと、後から見たが何もいなかった。4月7日、5羽のツグミが樹冠を移動。群れていても芝生に降りない。キリの木にハシボソガラスが営巣したが放棄したようだ。4月13日、20羽+と30羽+のヒヨドリの群れが北に向かって飛んで行った。4月16日、オシドリの番が並んで岸辺で休息。4月21日にも同じ場所にいた。40羽+のヒヨドリの群れが北に向かって飛んで行った。4月25日、騒がしく鳴きながらムクドリが巣材をくわえて戸袋に入った。シジウカラのメスが羽

根をくわえて飛んで行った。そのすぐ後を
ひがピタリついて行った(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月3日
午前7時過ぎから15分程オオルリがさえず
る。昨年より1ヶ月近く早い。4月15日、
センダイムシクイ1羽がハナミズキの枝を
飛ぶ(内田克二)。◇4月21日、村国池周辺
でアカハラのさえずり。シロハラ、ツグミ
(藤原寛治)。

さいたま市岩槻区村国 ◇4月9日午後2時
頃、元荒川緑地でオオタカ1羽、ヒヨドリ
の鳴き声が異常なので、何かかなと思ってい
たらオオタカが現れ、南西の方向に飛んで
行った(菊川和男)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇4月10日、コガ
モ♂4羽♀型7羽、コチドリ5羽、イソシ
ギ1羽、夏羽のタヒバリ1羽。4月19日、
キジ♂1羽、♀2羽を伴い、何かつばみ
ながらのんびり歩くが、遠くでキジの音が
すると、首を伸ばして声のする方向をキッ
と見据える。コチドリ2羽、セッカ1羽、
草の先端にとまったまま「ヒッヒッ、チャ
チャッ」と鳴く。4月26日、コサギ1羽、
キセキレイ1羽、シメ1羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇4月11日、
ツミの声。探したら♀1羽が葉を落とした
高木の枝にとまっていた。4月24日、緑地
内の湿地にカワセミ1羽。キビタキとセン
ダイムシクイ、さえずる(小林みどり)。

加須市北川辺幼稚園 ◇4月11日午後4時15
分、ムナグロ70羽十の群れ、チュウサギ
1羽(石川ふく)。

さいたま市見沼区深作遊水地 ◇4月12日、
マガモ♂1羽、♀1羽、ヨシガモ♂1羽。
オカヨシガモ♂3羽、♀3羽、いずれもペ
ア。ハシビロガモ♀型2羽、オオバン2羽、
バン成鳥2羽十。ツマキチョウ10頭十飛び
回る(小林みどり)。

蓮田市黒浜 ◇4月15日、午前10時30分頃、
ノビタキ1羽、ホオジロ類の鳴き声とは違
う音がするので、良く見るとノビタキだっ
た(菊川和男)。

越谷市三野宮 ◇4月2日午後1時頃、新方
川でヒクイナ(佐藤幸司)。

越谷市恩間新田 ◇4月16日、新方川でヒク



ヒクイナ(佐藤幸司)

イナ1羽、のんびりと採餌していた(内田
克二)。

さいたま市見沼区深作 ◇4月18日午前9時
30分頃、ヒヨドリ30羽十の群れが北へ飛ん
でいった(藤原寛治)。

戸田市道満彩湖 ◇4月18日、シロカモメ1
羽(高橋達也)。

羽生市羽生水郷公園 ◇4月19日、ツバメを
数えていたら、チョウゲンボウに変わった。
地上でカラスが喧嘩していると思ったらハ
シボンガラスが交尾していた。カラスの交
尾を見たのは初めてだ。オオタカ若鳥が電
柱にとまって周囲を睥睨していた。コチド
リが1羽、砂利を敷いた空地に座っていた。
アシの生えた湿地から平らな音程で「ヒョ
ッヒョッヒョッヒョッ」という声、始め大
きく徐々に小さくそして間隔が短く、何の
鳥の声だろうか。その他、ダイサギ、ハシ
ビロガモ、コガモ、カルガモ、バン、オオ
バン、カイツブリなど(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区染谷 ◇4月19日、ヒヨド
リ多数、雑木林に集結。騒々しい中で、ア
カハラ1羽さえずる(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇4月19日、
カイツブリの声、アオサギ2羽、うち1羽
に婚姻色が出ている。コガモ少なくとも3
ペア、ヒドリガモとオナガガモの交雑種♀
型1羽、バン成鳥2羽、オオバン1羽(小
林みどり)。

表紙の写真

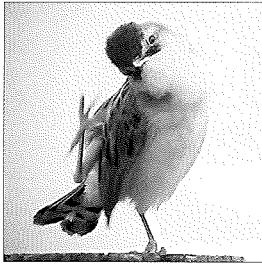
スズメ目ヒタキ科キビタキ属キビタキ

バードカービングを始めて5年。鳥の大き
さ・姿・形・色彩を良く観察するようになり
ました。

田口勝利(さいたま市)



行事案内



セッカ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費:就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物:筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻:特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月1日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→栗橋 7:56→板倉東洋大前 8:08 着。JR 宇都宮線浦和 6:55→大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：内田、玉井、田邊、中里、植平、茂木、佐藤、進士、山田（東）、佐野、野口（修）

見どころ：この時季の定番7種は、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウ、コアジサシ。プラスアルファは皆で探しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月8日（日）



4月22日 秋ヶ瀬公園探鳥会

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：新井（巖）、森本、倉崎、千島、鶴飼、栗原、飛田

見どころ：梅雨が開けるといよいよ暑さも本番となります。巣立って間もない幼鳥も、まだ子育て中の親鳥も餌探しに懸命です。そんな鳥たちを探しながら水辺に向かいましょう。今年もカイツブリのヒナたちのお出迎えが楽しみです。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：オオヨシキリが鳴き、セッカが夏の到来を告げている見沼たんぼ。毎月探鳥会を行なっていますので、今月暑さに負けず、鳥と自然を楽しみます。今年生まれの元気な鳥たちを見つけましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月21日（土）

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き 9:10 発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：入園料 400 円（子供 80 円）、65 歳以上 200 円（年齢を証明できるものが必要）。

担当：中村（豊）、岡安、佐久間、大坂、内藤、藤掛、藤澤、宇野澤、高橋（優）、杉原

見どころ：蒸し暑く、しかも野鳥との出会いが少ないこの時季ですが、雑木林の小道を歩けばきっとエナガやカラ類などの小鳥たちが出迎えてくれます。キツツキも出てくれるといいですね。美しい国蝶のオオムラサキやヤマユリの花も待っています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月21日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:38 発に乗車。

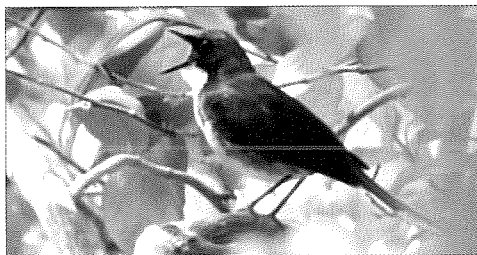
担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、星、石光、山本（真）、久保田、山口、水谷、間正

見どころ：暑い夏は鳥が少ない。でも、よく探せば案外います。花は咲いているし、虫たちもいます。暑さに負けない体力さえあれば楽しめます。

長野県・乗鞍（豊平）探鳥会（要予約）

期日：7月29日（日）

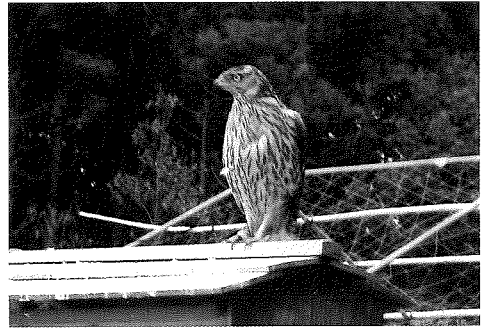
詳細は6月号をご覧ください。



城峯山の若葉の中で、コルリが良い声で鳴いていました。（田島利夫）

犯人？はオオタカ

有村 優（春日部市）



郷里鹿兒島に帰省したときのことです。

友人から「ニワトリを放し飼いで育てている。そのニワトリを襲うタカがいる。どうしたらいいものか、ひとつ相談に乗って欲しい」と連絡をもらいました。

そのタカを確かめるべく、物陰に隠れて撮った写真が上記のものです。なんとオオタカの若です。止まったところは、ニワトリを放し飼いにしている一角の物置小屋の上。私との距離は 15 メートル。カメラはコンパクトデジタルカメラ。

ふるさとでの人と野鳥との身近さに驚き、またうれしく思いました。友人には、「オオタカは貴重な鳥です。役所に相談してみれば」と話すしかありませんでした。

自宅でのカッコウの記録

大西孝治（三郷市）

今朝、今季初のカッコウの声を聞きました。そこで、過去 10 年ほどの自宅での初鳴きの記録を調べてみました。以下の通りです。

2003 年（平成 15 年）	6 月 24 日
2004 年（平成 16 年）	6 月 6 日
2005 年（平成 17 年）	5 月 27 日
2006 年（平成 18 年）	5 月 29 日
2007 年（平成 19 年）	（確認できず）
2008 年（平成 20 年）	5 月 18 日
2009 年（平成 21 年）	5 月 27 日
2010 年（平成 22 年）	5 月 20 日
2011 年（平成 23 年）	5 月 19 日
2012 年（平成 24 年）	5 月 24 日

どこから来て、どこへ行くのか。毎年、律儀なもんです。



行事報告

2月12日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加：40名 天気：晴

トビ ノスリ キジバト コゲラ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ミソ
サザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ
ツグミ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオ
ジロ アトリ カワラヒワ ベニマシコ スズメ
ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 今年
は積雪が殆どなく、雪景色を楽しみにしていた人
には残念な1日になってしまった。森林公園内は、
昨年と比べると鳥が少なかったので、山吹の郷で
じっくり鳥を見る事にした。人形のように動かな
いカシラダカやミヤマホオジロ、時々姿を現すベ
ニマシコ等が見られた。駅に近づいた時、D51の汽
笛が鳴って探鳥会が終了。(入山 博)

2月12日(日) 所沢市 狭山湖

参加：15名 天気：快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ コ
ガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミサゴ ト
ビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ハク
セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シロハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：
ドバト) 各地で冬鳥の少ないこの冬。当地も例外
ではなく、ジョウビタキもシメも観察されなかつ
た。そんな中、カンムリカイツブリは、早くも夏
羽の個体も混じり、ここ数年では多いように見え
て少し安堵した。「北風に 逆らい浮かぶ 水鳥の
群れなす中にはや夏の羽根」(石光 章)

2月18日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：23名 天気：晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ
オカヨシガモ トビ ハイタカ ノスリ キジバ
ト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ

イ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリ
ビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ
ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワ
ラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (31種) 芝生に薄く残った雪を踏みな
がら日本庭園に入ると、すぐ前方の枝に止まるノ
スリの姿が間近に見られた。この冬の野鳥の少な
さは相変わらずだが、所々でカラの混群に出会っ
た。ふれあい広場ではツグミとアオジ、その先の
雑木林ではアオゲラの姿も。疎林地帯では松林の
下で4~5羽のビンズイが餌をついばみ、連れ添
うようにしてシジュウカラも歩いていた。記念広
場の上空を強風に乗るようにして素早く飛び去
ったのはハイタカ。山田大沼のカモは日を重ねるご
とに減り続け、少数が残るのみとなった。カワウ
は繁殖活動に入っていた。(中村豊己)

2月18日(土) 上尾市 丸山公園

参加：21名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ マガモ カルガ
モ オナガガモ キンクロハジロ オオタカ キ
ジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロ
セキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカ
ハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ア
オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種)
スタートしたらエナガ、ヤマガラが多数出て盛り
上がったが、公園の中は意外と静かだった。修景
池ではカワセミが出なかったが、マガモ、カルガ
モの中にオナガガモ♂1羽とこの公園では初めての
キンクロハジロ♀が3羽いた。林では期待した
アオゲラ、アリスイは空振り、河川敷は強風で寒
くタヒバリを見られず。それでも終わってみれば
参加者より鳥の方が多かった。(大坂幸男)

2月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老
原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛
保司、増尾隆、松村禎夫

2月19日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：34名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ

モ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ
オナガガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワア
イサ トビ ノスリ シロチドリ ハマシギ イ
ソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ
オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種)

(番外：ドバト) 晴れて風も穏やか。次々に飛び
立つヒバリ、ホオジロを見ながら牧草地を進む。
上空で2羽のノスリが戯れるように飛ぶ。恋の季
節か? やや大きい雌の方が積極的なようだった。
芦原でオオジュリンを観察して河原に出ると、ま
ずホオジロガモとカワアイサがお出迎え、ミコア
イサ、ヨシガモと人気の4種を含めてカモ類は9
種。ハマシギの編隊飛行のおまけも。(新井 巖)

2月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：60名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ
オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン
オオバン イカルチドリ セグロカモメ キジバ
ト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ム
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種)

(番外：ドバト) 寒かったが、快晴で風もない。
芝川にはカモ達、カワセミ。青空にノスリ、田ん
ぼのメタセコイアにチョウゲンボウ、片柳の森に
オオタカ。早春を感じた探鳥会。(楠見邦博)

2月19日(日) 志木市 柳瀬川

参加：32名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ
ナガガモ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ
イソシギ キジバト コゲラ キセキレイ ハク
セキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ツグミ セッカ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ス
ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス (34種) (番外：ドバト) 探鳥路の東武東上線の
鉄橋は耐震工事中、富士見橋から約500mは川底の

砂利を取り除く工事中であった。風も無く、良く
晴れた1日で鳥数は少なかったがツグミが多くな
ってきた。キジが2羽が畑でエサをついばむ姿を
順光でゆっくり全員が見られ、セキレイ4種も確
認できた。探鳥会終盤にカイツブリがアメリカザ
リガニを捉え、食べるのに苦労している姿を参加
者全員で眺め、楽しませて貰った。(持丸順彰)

2月26日(日) 行田市 利根大堰

参加：32名 天気：曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイ
サギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コ
ガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ミサゴ トビ ノ
スリ ハイロチュウヒ チュウヒ チョウゲン
ボウ オオバン シロチドリ ハマシギ イソシ
ギ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ
イ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュ
ウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (44種) (番外：ドバト) 初めての探鳥
地で、期待を胸にスタート。利根大堰では、カモ
類や夏羽に換わったカンムリカイツブリを見る。
下流に移動し中州のハマシギや、上空を飛ぶチュ
ウヒを見る事ができた。鉄塔の天辺に止まるチョ
ウゲンボウを見て終了。年末に現れたツクシガモ
がいなくなったのが残念だった。(入山 博)

2月26日(日) 東松山市 物見山

参加：47名 天気：曇

オオタカ コジュケイ キジバト コゲラ ハク
セキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ シロハ
ラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (23種) (番外：ガビチョウ)
市民の森の松林、雑木林の中は鳥がいらない。下見
の時はいたルリビタキ、ピンズイもいない。森の
はずれでようやくヤマガラ、シジュウカラ、コゲ
ラ、メジロの小さな混群が現れた。谷津田に出て
も、例年だったらいるベニマシコもいない。カシ
ラダカの群れも小さい。オオタカがはるか上空を
帆翔してくれた。畑でモズ、ツグミ、ハクセキレイ
、ムクドリも貴重な1種。開花が遅れていた梅

の花が咲き始めていた。参道から採餌しているカワラヒワを全員が良く見ることができた。岩殿観音の裏でミソサザイが出てくれたが、見ることができた人は少数。物見山山頂に登ると展望台が撤去されて広場になっていた。シメが出なかったのでちょっとさびしい鳥合わせだった。(千島康幸)

2月26日(日) さいたま市 岩槻文化公園
参加：50名 天気：曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ ハイタカ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外：コブハクチョウ、ドバト) スタートして間もなく湿地帯でシジュウカラ、メジロ、ミソサザイが出迎えてくれ、村国池ではカワセミが飛び回る。水管橋の上からカモ類やシギチを探しているとハイタカやオオタカが上空を舞い、その後も何回も飛んでくれ、両者の比較ができた。テストコースの帰路ではエナガやジョウビタキなどが出て盛り上がる。最後は元荒川の対岸のアシに止まるオオジュリンを全員で観察。(長野誠治)

3月4日(日) 寄居町 玉淀河原
参加：53名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ キジ キジバト イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 梅がようやく開花、シジュウカラやウグイスがさえずり、春の近さを思い起こさせる日だった。河原には北帰行の近いコハクチョウがいた。これといった珍しい鳥は観察できなかったが、アフターの周辺散策には30名近い方が参加し、地元の自然や鉢形城跡などのミニ解説に耳を傾けてくれた。(小池一男)

3月4日(日) 蓮田市 黒浜沼
参加：43名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ キジ クイナ オオバン タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 芦原でアオジやホオジロを見た後、上沼のカモやカイツブリを見ながら沼の南端に来ると、枯れ木に止まったオオタカ成鳥を見ることができた。ホトケノザやヒメオドリコソウの可憐な野の花を見ながら歩くと、ペアになったモズが1本の木に止まっていて春を感じさせてくれた。後半にシメやジョウビタキが見られ、最後に人気のカワセミ、かなり赤いベニマシコが現れ、みんな大喜び。(玉井正晴)

3月10日(土) さいたま市 三室地区臨時
参加：10名 天気：雨

カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オオバン キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ スズメ ムクドリ コジュケイ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) 会が参加するさいたま市&市民ネットワークが開催する「見沼たんぼクリーン作戦」に参加。鳥を見るフィールドへの感謝の探鳥会。雨天だったが18袋のゴミを回収した。参加者のみなさまに感謝。終了後気持ちが良かった。(楠見邦博)

3月10日(土) 坂戸市 高麗川
雨のため中止。(山口芳邦)

(参考：3月8日の下見で観察された鳥) カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ イカルシメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外：ガビチョウ、ドバト)



●埼玉県のシラコバト調査に協力

埼玉県が独自にシラコバト生息状況調査を実施したいので協力してほしいとの連絡が、4月11日付け郵便で届きました。今年の5月～7月(繁殖期)と11月～来年1月(越冬期)の2回、①目撃情報の収集 ②現地調査 ③集計分析を、環境部自然環境課野生生物担当が実施して、シラコバト保護対策を検討したいとのこと。

急な話なので4月15日(日)の役員会議では結論を出せず、担当との話し合いを進めて5月20日(日)の役員会で再度検討、①と②のうち期間的に間に合う部分で協力することになりました。本誌がお手元に届くころには、現地調査をお願いする方に県の方から連絡が届いていると思われます。また、今年11月号には①についての呼びかけを掲載する予定です。よろしくお祈りします。

●日本野鳥の会連携団体全国総会



5月26日(土)～27日(日)の2日間、都内中央区で開催され、連携団体関係44名、本部理事評議員事務局等31名、合計75名が集まり、当会からは海老原美夫副代表と

青木正俊、小林みどり両幹事の3名が出席しました。

講演「自然再生エネルギーの現状と問題点」をはじめ、「放射性物質の影響調査、水鳥類とツバメについて(保護室)」「愛玩捕獲全面禁止の成果(京都)」「写真撮影マナー(千葉)」「カナダガン対策(神奈川)」など様々な報告と意見が交わされました。

●会員数は

6月1日現在1,938人。

活動と予定

●5月の活動

5月12日(土) 6月号校正(海老原美夫、内藤義雄、長嶋宏之、藤原寛治、松村禎夫、山部直喜)。

5月20日(日) 役員会(司会:小林みどり、各部の報告・県のシラコバト生息状況調査協力依頼への対応・総会準備・その他)。

5月21日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け6月号を発送(倉林宗太郎)。

●7月の予定

7月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。

7月14日(土) 8月号校正(午後4時から)。

7月15日(日) 役員会(午後4時から)。

7月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

P8『自宅でのカッコウの記録』投稿者とはご近所さんである。2009年以降の自分の記録と比べてみた。1日違いで氏の方が早い。なぜだかちょっと悔しい。(山部)

先週、クロスジギンヤンマが飛んでいました。そろそろミドリシジミが出る頃だし、暑くなれば、タマムシやオオムラサキetc. 今から楽しみです!! (藤原)

しらこぼと 2012年7月号(第339号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社